患者向医薬品ガイド

2014年1月更新

ヒューマログミックス50注カート
ヒューマログミックス50注ミリオペン

【この薬は？】

販売名	ヒューマログミックス50注カート Humalog　Mix50	ヒューマログミックス50注ミリオペン Humalog　Mix50
一般名	インスリン　リスプロ（遺伝子組換え） Insulin Lispro　(Genetical Recombination)	
含有量 (1製剤中)	300単位 (50%インスリンリスプロ+50%中間型インスリンリスプロ)	

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」http://www.info.pmda.go.jp/　に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- この薬は、インスリンアナログ混合製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- この薬は、細胞内への糖の取り込み、肝臓での糖新生の抑制、および肝臓、筋肉におけるグリコーゲン合成の促進作用などにより血糖値を下げます。
- 次の病気の人に処方されます。
  インスリン療法が適応となる糖尿病
- この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者または家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減せず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

- 低血糖症状の人
- 過去にヒューマログミックス 50 注カート、ミリオペンに含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人

〇次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- インスリンの必要量の変動が激しい人
  - 手術をした人、外傷をうけた人、感染症にかかっている人
  - 妊娠している人
- 低血糖を起こしやすい次の人
  - 肝臓または腎臓に重篤な障害がある人
  - 脳下垂体または副腎機能に異常のある人
  - 下痢または嘔吐（おうと）などの胃腸障害のある人
  - 飢餓状態の人、不規則な食事の人
  - 激しい筋肉運動をしている人
  - 飲酒量の多い人
  - 高齢の人
- 低血糖を起こすと事故につながるおそれがある人（高所作業、自動車の運転などの作業に従事している人など）
- 自律神経に障害のある人

〇この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や，新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の使用する量および回数は以下の通りです。

1回量	４～２０単位
回数 ＊	１日２回　朝食直前と夕食直前
1日量	４～８０単位

＊ 医師の判断に基づき、使用回数が増減されることがあります。その場合も本剤は食直前に使用します。なお、1 日 1 回使用の場合は朝食直前に使用します。

●どのように使用するか？

- 皮下注射します。具体的な使用方法については、末尾に別途添付しています。必ず添付の取扱説明書を読んでください。

〔ヒューマログミックス 50 注カート（カートリッジ製剤）〕

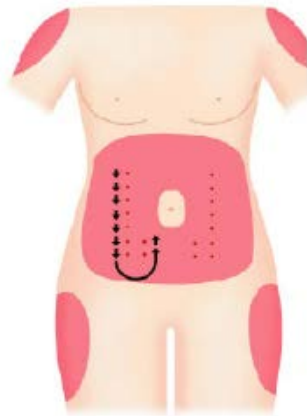
- ヒューマログミックス50注カート専用のインスリンペン型注入器および使い捨ての注射針を用いて皮下注射します。
- 必ずインスリンペン型注入器の取扱説明書を読んでください。

〔ヒューマログミックス 50 注ミリオペン（キット製剤）〕

・カートリッジ製剤と使い捨てのできるインスリンペン型注入器との一体型で、

使い捨ての注射針を用いて皮下注射します。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

- 必ず添付の取扱説明書を読んでください。
- 注射のたびに新しい注射針を使用してください。
- 注射針は必ず JIS T 3226-2 に準拠したＡ型専用注射針を使用してください。［本剤とＡ型専用注射針との適合性の確認をＢＤマイクロファインプラスおよびナノパスニードルで行っています。］
- 本剤とＡ型専用注射針との装着時に液漏れなどの不具合が認められた場合には、新しい注射針に取り替えてください。
- 一本のインスリンペン型注入器およびカートリッジを他の人と共用しないでください。
- 皮下注射は、腹部、大腿部（だいたいぶ）、上腕部、臀部（でんぶ）などに行います。注射部位により吸収速度がことなるので、部位を決め、その中で、前回の注射場所から２～３ｃｍ離して注射してください。

- 静脈内に注射しないでください。
- 使用済みの注射針は、取り外した針先が突き出ないような安全な容器に入れた後、子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

- 決して2回分を一度に注射しないでください。
- 注射をし忘れた場合は、医師に相談してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- 低血糖症状（脱力感、強い空腹感、冷や汗、動悸（どうき）、手足のふるえ、意識が薄れるなど）があらわれる可能性があります。
- 低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は糖質を含む食品や砂糖をとってください。αーグルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。
  意識が薄れてきた場合は、すぐに受診してください。
- 低血糖症状の一つとして意識障害をおこす可能性もありますので、この薬を使用していることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- この薬を使用するにあたっては、注射法や低血糖症状への対処法などについて、患者さんまたは家族の方は十分に理解できるまで説明を受けてください。
- 指示された時間に食事をとらなかったり、食事の量が少なかったり、予定外の激しい運動を行った場合、低血糖症状があらわれることがあります。低血糖症状に関する注意を必ずご家族にも知らせてください。低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は糖質を含む食品や砂糖をとってください。αーグルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。意識が薄れてきた場合は、すぐに受診してください。**副作用は？**に書かれていることに特に注意してください。
- 使用方法に間違いがあったり使用を忘れたりして、体内のインスリンが不足すると高血糖（体がだるい、脱力感）を起こすことがあります。これらの症状があらわれたら受診してください。
- 急激な血糖のコントロールに伴い、糖尿病網膜症があらわれたり、悪化したり、目の屈折異常がおこったり、痛みを伴う神経障害があらわれることがあります。
- 高所での作業や自動車の運転等、危険を伴う作業に従事しているときに低血糖を起こすと事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。
- 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけっとう	めまい、空腹感、ふらつき、手足のふるえ、脱力感、頭痛、動悸、冷や汗
アナフィラキシーショック	ふらつき、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、意識の低下、息切れ、判断力の低下、動悸、からだがだるい、ほてり、考えがまとまらない、じんましん、息苦しい
血管神経性浮腫 けっかんしんけいせいふしゅ	息苦しい、じんましん、まぶたのはれ、唇のはれ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき、脱力感、冷や汗、からだがだるい
頭部	めまい、頭痛、意識の低下、考えがまとまらない
顔面	ほてり
眼	眼と口唇のまわりのはれ
口や喉	眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声
胸部	動悸、息切れ、息苦しい
腹部	空腹感
手・足	手足のふるえ
皮膚	じんましん
その他	判断力の低下

【この薬の形は？】

販売名	容器の形状
ヒューマログミックス 50 注カート	
ヒューマログミックス 50 注ミリオペン	

・ 性状　　：穏やかに振り混ぜると、白色の懸濁液となります。
・ 内容量 ：3mL

インスリンペン型注入器

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	インスリン　リスプロ　（遺伝子組換え）
添加物	プロタミン硫酸塩、濃グリセリン、m－クレゾール、液状フェノール、リン酸水素二ナトリウム七水和物、酸化亜鉛、pH 調節剤

【その他】

●この薬の保管方法は？

〔ヒューマログミックス 50 注カート（カートリッジ製剤）〕

・ 凍結を避けて冷蔵庫など(２～８℃)で保管してください。光を避けてください。

・ カートリッジをインスリンペン型注入器に装着したまま、冷蔵庫に保管しないでください。

・ 使用開始後は 28 日以内に使用してください。

〔ヒューマログミックス 50 注ミリオペン（キット製剤）〕

・ 凍結を避けて冷蔵庫など(２～８℃)で保管してください。光を避けてください。

・ 使用開始後は冷蔵庫に保管せず、28 日以内に使用してください。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

・ 子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・ 絶対に他の人に渡してはいけません。

・ 余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

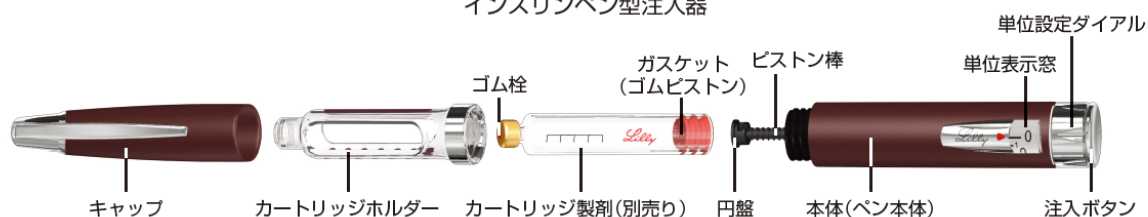
・ 使用済みのカートリッジ・ミリオペンについては、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・ 症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・ 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：日本イーライリリー株式会社（http://www.lilly.co.jp）
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
Lilly Answers（リリーアンサーズ）
電話：０１２０－２４５－９７０（一般の方、患者様向け）
受付時間：８時４５分～１７時３０分
（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

取扱説明書

ヒューマペン®ラグジュラの各部の名称

注射の準備をします

注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。また下記のものがそろっているか確認してください。

- ヒューマペン®ラグジュラ
- ヒューマログ®注、ミックス25注、ミックス50注、N注又はヒューマリン®R注、N注、3/7注のカートリッジ製剤（100単位/mL－以下、「弊社のインスリンカートリッジ」といいます。）
- 新しい注射針
- アルコール綿

注射針（別売り）

針キャップ
保護シール
針ケース
注射針

1 インスリンカートリッジを装着します。

キャップを引っ張って外します。

カートリッジホルダーを取り外します。

①

インスリンカートリッジを装着します。

弊社のインスリンカートリッジの細い方を先にして、カートリッジホルダーに入れてください。

ポイント：
装着する前にインスリンカートリッジにひび割れや破損がないことを確認してください。

②

カートリッジのガスケット（ゴムピストン）を押し当ててピストン棒を押し戻してください。

- ペンを初めて使用する際、ピストン棒が図のように出ていないことがありますが、そのままカートリッジを入れたカートリッジホルダーを本体に取り付けてください。
- カートリッジのガスケット（ゴムピストン）をピストン棒の先端の円盤に押し当てて、ピストン棒をゆっくりと押し戻してください。この時に円盤には手を触れないでください。また、ピストン棒は引っ張らないでください。

ポイント：
カートリッジホルダーにカートリッジが入っていないと、ピストン棒は、前進しないように設計されています。

③

カートリッジホルダーを取り付けます。

カートリッジホルダーをペン本体にまっすぐ押し付けたまま、時計方向に回してしっかりと取り付けてください。

注意：
カートリッジホルダーの取り付けが不完全な場合、ピストン棒が動かず、設定量が投与できないことがあります。

④

インスリン製剤を確認します。

以下のことを確認してください。

- インスリン製剤の種類
- 使用期限
- 状態

カートリッジの先端のゴム栓をアルコール綿でていねいに拭いてください。

⑤

懸濁したインスリン製剤をご使用の場合

ヒューマペン®ラグジュラをゆっくり10回以上転がします。

次に、インスリンが均一に混ざるまでゆっくりと上下に10回以上振ってください。

正しい量を投与するために、**投与毎に混ぜることが重要です。**

懸濁したインスリン製剤には、よく混ざるようにガラスビーズが入っています。

⑥

2 空打ち（注射のたびに必ず行ってください）

注射針の保護シールをはがします。

注射のたびに新しい注射針をご使用ください。

注射針を取り付けます。

針ケースごと注射針をカートリッジホルダーに**まっすぐ**押し当て、時計方向に回してしっかりと取り付けます。

①

針ケースと針キャップを取り外します。

針ケースと針キャップをまっすぐ引っ張り取り外してください。

針ケースは注射後に注射針を取り外す時に使用するので、捨てないでください。針キャップは捨ててください。

②

単位設定ダイアルを回して2単位に合わせます。

カートリッジを軽く指ではじきます。

注射針を上に向けてください。

カートリッジを軽く指ではじいて、空気を上に集めてください。

③

注意：空打ちを行わなかった場合、注射されるインスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。

空打ちをします。

注入ボタンを押してください。

インスリンが**流れ出る**のを確認してください。

インスリンのしずくが出るだけでは、正しく空打ちが**できていません**。

注意：
初回カートリッジ使用時は、空打ちを繰り返すことが必要な場合があります。空打ちを繰り返してもインスリンが出てこない時は、注射針が詰まっている可能性があります。

④

インスリンが流れ出なければ、空打ちを繰り返してください。

単位設定ダイアルを回して2単位に合わせます。

カートリッジを軽く指ではじいてください。

注入ボタンを押してインスリンが**流れ出る**のを確認してください。

⑤

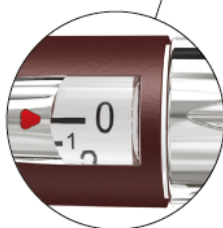
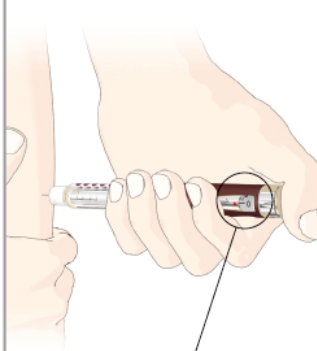
③ 注射

主治医に指示された単位を設定します。

単位設定ダイアルを時計方向に回して主治医に指示された単位を設定します。

図は15単位に設定した例が示されています。

間違えて単位を多く設定してしまった場合は、単位設定ダイアルを逆方向（反時計方向）に回すと単位を修正できます。

ポイント：
単位設定ダイアルを回した際あるいは注入ボタンを押した際に、カチカチと音がしない場合は、破損の可能性があるので、ただちに使用を中止し、主治医にご相談のうえ、新しいヒューマペン®ラグジュラと交換してください。

①

注射をします。

注射する場所を消毒し、主治医に指示された方法で注射針を皮膚にさします。

注入が重く感じられる時は、注入を**ゆっくり**と行うようにしてください。
図のように親指を注入ボタンにまっすぐ置き、そして注入ボタンが止まるまで**ゆっくり**とまっすぐに押します。

5秒

注入ボタンを押したまま**5秒以上**待ち、そのあと注入ボタンを押したまま注射針を皮膚から抜いてください。

単位表示窓に「**0**」と表示されていることを確認してください。これは、設定量すべてが注射されていることを示しています。

ポイント：
カートリッジに残っているインスリン量以上の単位を設定することができます。

注射が終了すると、単位表示窓に「0」と表示されています。「0」でない場合は、その数が注射できなかったインスリン量ですので、その数字を覚えておいてください。

注射針と空になったカートリッジを取り外してください。

新しいカートリッジを「インスリンカートリッジの交換」に従って装着し、「2.空打ち（注射のたびに必ず行ってください）」に従って空打ちしてください。

注射できなかったインスリン量を注射してください。

ポイント：
正しく単位設定したにもかかわらず設定した量を注射できなかったと思っても、再投与はしないでください。再投与すると過量投与のおそれがあります。主治医の指示に従い血糖値の変化にご注意ください。

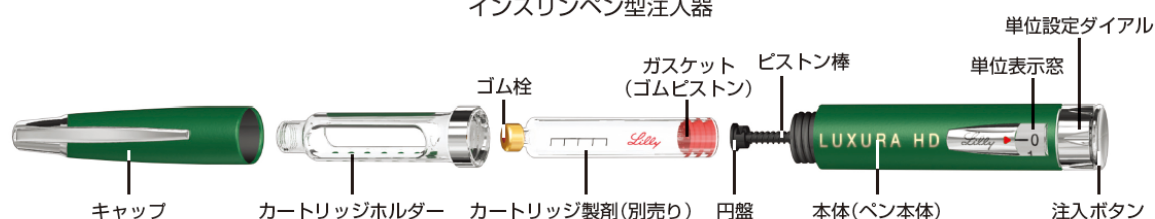
②

ヒューマペン®ラグジュラのご使用に際して、ご質問やご不明な点がある場合は、主治医にご相談いただくか、弊社までお問い合わせください。

お問合せ先： Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0120-245-970（一般の方・患者様向け）
078-242-3499 ＊
＊フリーダイヤルでの接続ができない場合、このお電話番号にお掛けください。
尚、通話料はお客様負担となります。

製造販売元〈資料請求先〉
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

ヒューマペン®ラグジュラは、日本イーライリリー株式会社のインスリンカートリッジ製剤（100単位/mL）の使用に際し、JIS T 3226-1（医療用ペン形注入器—第1部：ペン形注入器—要求事項及びその試験方法）に適合しています。

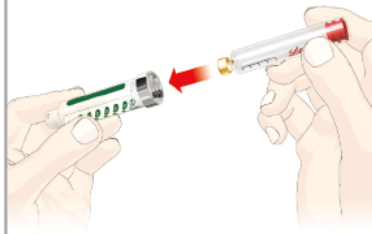
取扱説明書

ヒューマペン®ラグジュラHDの各部の名称

注射の準備をします

注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。また下記のものがそろっているか確認してください。

- ヒューマペン®ラグジュラHD
- ヒューマログ®注、ミックス25注、ミックス50注、N注又はヒューマリン®R注、N注、3/7注のカートリッジ製剤（100単位/mL－以下、「弊社のインスリンカートリッジ」といいます。）
- 新しい注射針
- アルコール綿

注射針（別売り）

1 インスリンカートリッジを装着します。

キャップを引っ張って外します。

カートリッジホルダーを取り外します。

①

インスリンカートリッジを装着します。

弊社のインスリンカートリッジの細い方を先にして、カートリッジホルダーに入れてください。

ポイント：
装着する前にインスリンカートリッジにひび割れや破損がないことを確認してください。

②

カートリッジのガスケット（ゴムピストン）を押し当ててピストン棒を押し戻してください。

- ペンを初めて使用する際、ピストン棒が図のように出ていないことがありますが、そのままカートリッジを入れたカートリッジホルダーを本体に取り付けてください。
- カートリッジのガスケット（ゴムピストン）をピストン棒の先端の円盤に押し当てて、ピストン棒をゆっくりと押し戻してください。この時に円盤には手を触れないでください。また、ピストン棒は引っ張らないでください。

ポイント：
カートリッジホルダーにカートリッジが入っていないと、ピストン棒は、前進しないように設計されています。

③

カートリッジホルダーを取り付けます。

カートリッジホルダーをペン本体にまっすぐ押し付けたまま、時計方向に回してしっかりと取り付けてください。

注意：
カートリッジホルダーの取り付けが不完全な場合、ピストン棒が動かず、設定量が投与できないことがあります。

④

インスリン製剤を確認します。

以下のことを確認してください。
- インスリン製剤の種類
- 使用期限
- 状態

カートリッジの先端のゴム栓をアルコール綿でていねいに拭いてください。

⑤

懸濁したインスリン製剤をご使用の場合

ヒューマペン®ラグジュラHDをゆっくり10回以上転がします。

次に、インスリンが均一に混ざるまでゆっくりと上下に10回以上振ってください。

正しい量を投与するために、**投与毎に混ぜることが重要です。**

懸濁したインスリン製剤には、よく混ざるようにガラスビーズが入っています。

⑥

② 空打ち（注射のたびに必ず行ってください）

注射針の保護シールをはがします。

注射のたびに新しい注射針をご使用ください。

注射針を取り付けます。

針ケースごと注射針をカートリッジホルダーに**まっすぐ**押し当て、時計方向に回してしっかりと取り付けます。

①

針ケースと針キャップを取り外します。

針ケースと針キャップをまっすぐ引っ張り取り外してください。

針ケースは注射後に注射針を取り外す時に使用するので、捨てないでください。針キャップは捨ててください。

②

単位設定ダイアルを回して2単位に合わせます。

カートリッジを軽く指ではじきます。

注射針を上に向けてください。

カートリッジを軽く指ではじいて、空気を上に集めてください。

③

注意：空打ちを行わなかった場合、注射されるインスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。

空打ちをします。

注入ボタンを押してください。

インスリンが**流れ出る**のを確認してください。

インスリンのしずくが出るだけでは、正しく空打ちが**できていません。**

注意：
初回カートリッジ使用時は、空打ちを繰り返すことが必要な場合があります。空打ちを繰り返してもインスリンが出てこない時は、注射針が詰まっている可能性があります。

④

インスリンが流れ出なければ、空打ちを繰り返してください。

単位設定ダイアルを回して2単位に合わせます。

カートリッジを軽く指ではじいてください。

注入ボタンを押してインスリンが**流れ出る**のを確認してください。

⑤

③ 注射

主治医に指示された単位を設定します。

単位設定ダイアルを時計方向に回して主治医に指示された単位を設定します。

0.5単位刻みでの単位数は数字の間の線で示しています。

図は5.5単位に設定した例が示されています。

間違えて単位を多く設定してしまった場合は、単位設定ダイアルを逆方向（反時計方向）に回すと単位を修正できます。

ポイント：
単位設定ダイアルを回した際あるいは注入ボタンを押した際に、カチカチと音がしない場合は、破損の可能性があるので、ただちに使用を中止し、主治医にご相談のうえ、新しいヒューマペン®ラグジュラHDと交換してください。

①

注射をします。

注射する場所を消毒し、主治医に指示された方法で注射針を皮膚にさします。

注入が重く感じられる時は、注入を**ゆっくり**と行うようにしてください。
図のように親指を注入ボタンにまっすぐ置き、そして注入ボタンが止まるまで**ゆっくり**とまっすぐに押します。

注入ボタンを押したまま**5秒以上**待ち、そのあと注入ボタンを押したまま注射針を皮膚から抜いてください。

単位表示窓に「**0**」と表示されていることを確認してください。これは、設定量すべてが注射されていることを示しています。

ポイント：
カートリッジに残っているインスリン量以上の単位を設定することができます。

注射が終了すると、単位表示窓に「0」と表示されています。「0」でない場合は、その数が注射できなかったインスリン量ですので、その数字を覚えておいてください。

注射針と空になったカートリッジを取り外してください。

新しいカートリッジを「インスリンカートリッジの交換」に従って装着し、「2.空打ち（注射のたびに必ず行ってください）」に従って空打ちしてください。

注射できなかったインスリン量を注射してください。

ポイント：
正しく単位設定したにもかかわらず設定した量を注射できなかったと思っても、再投与はしないでください。再投与すると過量投与のおそれがあります。主治医の指示に従い血糖値の変化にご注意ください。

②

ヒューマペン®ラグジュラHDのご使用に際して、ご質問やご不明な点がある場合は、主治医にご相談いただくか、弊社までお問い合わせください。

お問合せ先：**Lilly Answers** リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0120–245–970（一般の方・患者様向け）
078–242–3499 ＊
＊フリーダイヤルでの接続ができない場合、このお電話番号にお掛けください。
尚、通話料はお客様負担となります。

製造販売元〈資料請求先〉
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

ヒューマペン®ラグジュラHDは、日本イーライリリー株式会社のインスリンカートリッジ製剤（100単位/mL）の使用に際し、JIS T 3226-1（医療用ペン形注入器－第1部：ペン形注入器－要求事項及びその試験方法）に適合しています。

取扱説明書

ヒューマログミックス 50 注ミリオペン

注射の準備

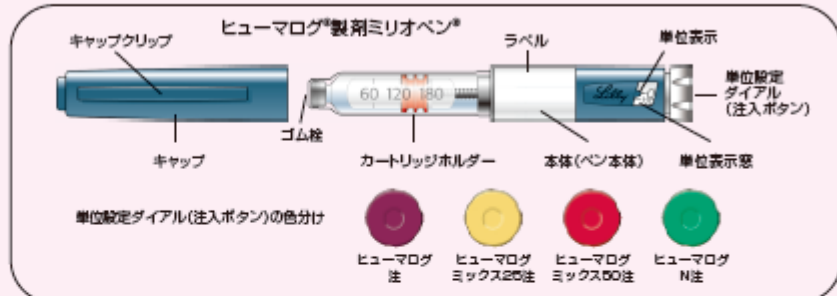
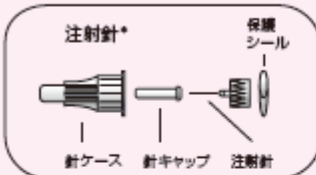
次のものがそろっているか確認してください。　□ミリオペン®　□新しい注射針　□アルコール綿

各部の名称　ミリオペン®及び注射針*

*注射針は別売りです。

注射針*：保護シール／針ケース／針キャップ／注射針

ヒューマログ®製剤ミリオペン®：キャップクリップ／ラベル／単位表示／単位設定ダイアル（注入ボタン）／キャップ／ゴム栓／カートリッジホルダー／本体（ペン本体）／単位表示窓

単位設定ダイアル(注入ボタン)の色分け：ヒューマログ注／ヒューマログミックス25注／ヒューマログミックス50注／ヒューマログN注

注射の手順　下記の手順に従ってください。

1. 注射の準備

注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。

①

キャップをまっすぐに引っ張って外します。キャップをねじらないでください。

ポイント

ペンのラベルを取り除かないでください。

以下のことを確認してください。
- インスリン製剤の種類
- 使用期限
- 製剤の状態

注意：使用するインスリン製剤の種類が正しいかを必ずペンのラベルで確認してください。

②

懸濁したインスリン製剤をご使用の場合

ミリオペン®をゆっくり10回以上転がします。

次に、インスリンが均一に混ざるまでゆっくりと上下に10回以上振ってください。

正しい量を投与するために、投与毎に混ぜることが重要です。

ポイント：懸濁したインスリン製剤には、よく混ざるようにガラスビーズが入っています。

③

カートリッジの先端のゴム栓をアルコール綿でていねいに拭いてください。

④

注射のたびに新しい注射針をご使用ください。

注射針の保護シールをはがしてください。

⑤

針ケースごとまっすぐに押し、注射針を回してしっかりと取り付けます。

⑥

針ケースを引っ張って取り外してください。針ケースは捨てないでください。
針キャップを引っ張って取り外し、捨ててください。

2. 空打ち

注意：・注射のたびに必ず空打ちを行ってください。空打ちは空気抜きを行い、また注射針の先からインスリンが流れ出ることで注射ができることを確認するための大切な操作です。
・インスリンが注射針の先から流れ出るように空打ちを行わないと、インスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。

単位設定ダイアルを回して2単位に合わせます。

②

注射針を上に向けてください。

カートリッジホルダーを軽く指ではじいて空気を上に集めてください。

●注射針を上に向けたまま、単位設定ダイアルが止まって単位表示窓に「0」が表示されるまで押し込んでください。
●そのまま単位設定ダイアルをしっかりと押し、インスリンの流れが止まるまで押し続けます。
●針先からインスリンが流れ出てきたら、空打ちは完了です。
●インスリンが流れ出てこない場合は、①から③までの操作方法を最大4回繰り返してください。

ポイント：針先からインスリンが流れ出ず、単位設定ダイアルが回らなくなった場合は、注射針を交換し、ミリオペン®の空打ちを行ってください。

3. 注射をします

①

単位設定ダイアルを回して、主治医に指示された単位を設定します。
間違えて単位を多く設定してしまった場合は、単位設定ダイアルを逆方向に回すと単位を修正できます。

（図は10単位に設定した例が示されています。）

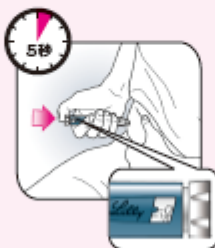
（図は15単位に設定した例が示されています。）
偶数数字はダイアル部に数字で示されています。3以上の奇数の単位数は、偶数数字の間に線で示されています。

単位表示窓

（図は26単位に設定した例が示されています。）

ポイント：単位表示窓の外側のダイアル部に見える目盛は単位設定数ではありません。必ず単位表示窓内の単位表示を確認してください。

②

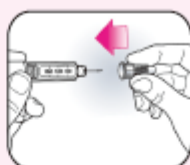
注射する場所を消毒し、主治医に指示された方法で注射針を皮膚にさします。
親指を単位設定ダイアルに置き、単位設定ダイアルが止まるまでしっかり押します。

単位設定ダイアルを押したまま5秒以上待ちます。

そのあと単位設定ダイアルを押したまま注射針を皮膚から抜いてください。

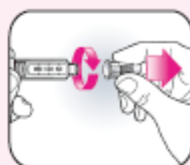
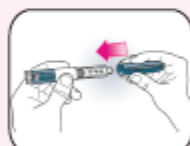
ポイント：単位表示窓に「0」と表示されていることを確認してください。
これは、設定量すべてが注射されていることを示しています。

正しく単位設定したにもかかわらず設定した量を注射できなかったと思っても、再投与はしないでください。再投与すると過量投与のおそれがあります。主治医の指示に従い血糖値の変化にご注意ください。

ポイント：ミリオペン®は、インスリン残量を超えて単位設定できないようにデザインされています。

③

主治医の指示に従い、指などをささないよう慎重に針ケースを取り付けてください。針ケースをまっすぐにかぶせないと、注射針が針ケースを突き破るおそれがありますので、十分に注意してください（針キャップをかぶせる必要はありません）。

ポイント：空気の混入を防ぐために注射後は必ず注射針を取り外してください。注射針を取り付けたままミリオペン®を保管しないでください。

④

注射針を回して取り外します。取り外した注射針は主治医の指示に従って廃棄してください。

キャップクリップと単位表示が一直線になるように向きを合わせて、まっすぐ取り付けてください。

ミリオペン®のご使用に際して、ご質問やご不明な点がある場合は、主治医にご相談いただくか、弊社までお問い合わせください。

お問合せ先： Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
（一般の方・患者様向け）
0120-245-970
078-242-3499 ＊
＊フリーダイヤルでの接続ができない場合、このお電話番号にお掛けください。
尚、通話料はお客様負担となります。

製造販売元（資料請求先）
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

®：登録商標

ミリオペン®は、JIS T 3226-1（医療用ペン形注入器―第1部：ペン形注入器―要求事項及びその試験方法）に適合しています。

IT0142JJAI